

株式会社マキトー・コンフォート 社長 ^{まきふち たつ お} 卷瀧 達夫 氏

健康と安全の提案をコンセプトに 新たなマーケットを創造する



PROFILE

1947年生まれ、柏崎市出身。一橋大学を卒業後、家業の取引先の大阪商事(ゴム履物メーカー)に2年間勤務し帰郷。社長就任後、学校体育靴「ラッキーベルシューズ」新潟県普及本部を開設し、1995年からドイツの靴メーカー・ペアー社の日本総代理店として2007年まで東京ショールームを開設して活動。1997年小会社株CFH JAPANとドイツ・3B社と合併で医学模型輸入販社日本スリービー・サイエンティフィック株を設立。2003年株巻瀧藤吉商店を現社名に変更し、本店を柏崎市から新潟市に移す。

マキトー・コンフォートは明治元年に巻瀧藤吉商店として創業して以来、繊維問屋や履物販売などに携わってきた企業。健康と安全に貢献する商品の普及販売とともに、自社商品の開発にも力を入れる巻瀧社長にお話を伺いました。



真ん中の人体模型が「KaRaDa」

株式会社マキトー・コンフォート
〒950-1135
新潟市江南区曾野木2-13-2
TEL : 025-284-1853
<http://www.makitou.com/>

エンドユーザーを第一に考えたマーケティングを行ってきました。
創意工夫で少しでも差別化した商品を提案していきたいです



かばんや机の中など手元に置ける「A4シェルター・タフ」は、厚さ18mmのファイルの中にホイッスル、LEDライト、多目的ポリエチレンシート、自分防災カードを内蔵。頭に被ると笠状に広がり、落下物から襟首を守ってくれる。

画期的な着想で開発した人体模型、防災グッズが話題に

学校体育靴「ラッキーベルシューズ」の新潟県総代理店をはじめ、医学教材・模型、防災グッズの企画、販売を手掛けるマキト・コンフォート。同社が開発した画期的な着想のオリジナル商品が、近年注目を浴びている。

その一つが、小学生向けの教材として開発した人体模型「KaRaDa」。臓器をニット地でぬいぐるみ状に成型し、柔らかな内臓の感触を実感できるようにした解剖模型で、2015年グッドデザイン賞の中小企業庁長官賞を受賞した。

また、災害時の落下物による頸椎の負担軽減を考えて開発したのが、緊急避難用防災簡易ヘルメット「A4シェルター・タフ」だ。「かばんやランドセルの中に入るので、移動中でもストレスなく携帯できます」と話す事業部の稲月部長。当商品はテレビを中心に多くのメディアで紹介され、現在、県外の私立学校を中心に国税庁所管の税務大学校や各種企業に納入されている。

全国への販売促進や機械設備の導入に補助金を活用

同社は平成27年度に小規模事業者持続化補助金[※]を活用し、「A4シェルター・タフ」の専用サイト構築やリーフレットの作成、展示会出展など全国への販売促進を展開。翌年度も同補助金を申請し、人体模型の製造に必要な機械設備を導入した。「補助金申請に必要な経営計画の作成を商工会議所さんに指導していた

だいたことで頭の中が整理され、今後の参考にもなりました」と巻瀨社長。この他にも防災商品に関する表示方法や海外展開に必要な法律などについても商工会議所の弁護士無料相談を利用した。「専門的な知識を相談するのに、いきなり弁護士事務所を訪ねるのはハードルが高い。小さい会社にとって商工会議所さんを利用させてもらうのは有効だと思います」と語る。

モノの価値を普及させることでおのずと流通がついてくる

「正しい医学知識に基づいた健康と安全に資する商品の提案」を経営の指針としてきた同社。子どもの学校履物が軽視されていた数十年前から、靴は体育授業の重要な教具という視点で学校への普及販売に務めてきたこともその一つだ。「地域の靴屋に売るのではなく、直接学校に行き行って教育的な価値を説明し、認めてもらうことで学校体育靴という新しいマーケットを創造できた。人体模型も防災グッズも同じで、流通を最初に考えるのではなく、モノの価値を普及させることで、おのずと流通がついてくるのです。社員の能力を發揮できる舞台を作っていきたい」という巻瀨社長。これからも健康と安全に貢献する商品を生み出し、全国への普及を目指す。



人気商品の人体部位の名称が学べるクリアファイル。

※
小規模事業者
持続化補助金

詳細はコチラ

